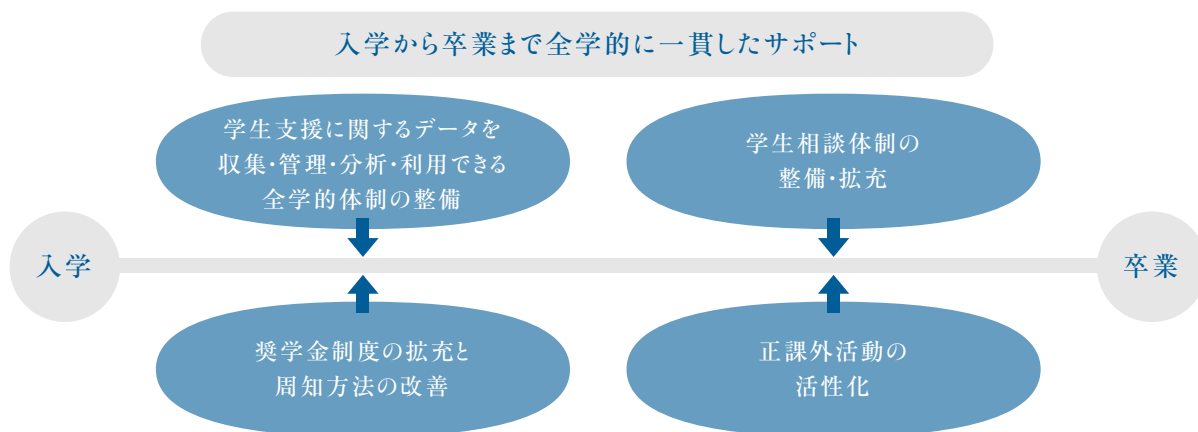


V 学生支援

「学生支援」の基本方針

学生支援においては、学生一人一人が、より充実した学生生活を送ることができるように支援するとともに、社会で活躍できる自立した人材として羽ばたける環境の整備をめざす。

そのためには、入学から卒業に至るまで全学的に一貫したサポートを行っていくことが不可欠であり、学生支援に必要なデータベースの整備や有機的な支援体制の構築を図っていく必要がある。



推進事項1

学生支援に関するデータを収集・管理・分析・利用できる全学的体制の整備

本学では、これまでも学生支援に関するデータの収集・分析を積極的に行ってきた。しかしながら、収集・管理するデータの範囲、データの多面的分析、分析したデータを有効に活用するための学内関係部門間の緊密な連携などの点では依然として課題を残している。

学生の入学から卒業に至るまで一貫した支援を行うためには、これらの課題を解決し、学生支援に関するデータベースをフルに活用できるような全学的体制の確立が早急に求められる。

施策

- ①学内関係部門による正確かつ詳細なデータの収集と収集したデータの統合的管理
- ②データベースの積極的活用および利用体制の確立
- ③データの収集・管理・分析・利用に関する学内関係部門間の緊密な連携体制の強化

推進事項2

学生相談体制の整備・拡充

本学においても就学上の不安や悩み、メンタルヘルスなどに関する学生相談が急増しており、その内容も複雑かつ多岐にわたる。すでに本学でも一定の相談体制が整ってはいるものの、相談に関する学内の情報共有と連携、多様化・複雑化する相談への対応、学生への相談制度の周知などの点では、なお課題を残している。

今後、これらの課題を踏まえ、学生の不安や悩みに的確に対応できるような学生相談制度・体制の見直しを進めていく必要がある。

施策

- ①学内関係部門との緊密な連携体制の構築
- ②専門知識を持つ責任者の配置を含めた管理運営体制の見直し
- ③相談業務に関わるノウハウの蓄積・活用
- ④学生相談制度の学生への周知徹底

推進事項3

奨学金制度の拡充と周知方法の改善

現行の奨学金制度は、給付型中心の制度として広く学生に利用されてきた。しかし、経済的困窮学生の支援を目的とした奨学金は概ね整備されてきている一方、積極性やチャレンジ精神を持った学生の育成を目的とした奨学金については十分な整備がなされているとは言えない。また、各種奨学金制度の周知方法が一元化されておらず、学生がすべての奨学金制度を把握することが難しい状況にある。

これらの課題を踏まえ、新しい給付奨学金の創設を含めた制度全体の再編および奨学金制度の周知方法の改善を行う必要がある。

施策

- ①修学および成長意欲の喚起を目的とした給付奨学金の新設
- ②現行の成績優秀者を対象とした給付奨学金の見直し
- ③奨学金制度の利用促進に向けた周知方法の改善

推進事項4

正課外活動の活性化

正課外活動への参加率は、他の私大と比較して決して低くないものの、公認団体においては文化会活動への参加率が2008年度をピークに低下傾向にある。また、体育会に所属する学生の学部構成は、圧倒的に豊田キャンパスの学生、とりわけスポーツ科(体育)学部生で占められており、人員構成に著しい偏りがある。正課外活動の支援内容については、公認団体への支援は概ね実施できていると考えられるが、文化会の活動場所への支援に課題を残している。

学生がスムーズに社会へ移行できるよう、社会性や人間性豊かな人材を育成するため、学生の正課外活動へのニーズを把握しながら支援を継続して行う必要がある。

施策

- ①体育会活動に多様な学生が参加できる体制の整備
- ②ボランティア活動への支援体制の構築
- ②施設面の充実、教室使用ルールの見直し、活動内容の検討など文化会活動の活性化の支援
- ④文化会・体育会の活動内容に関する広報活動の充実